

口腔菌叢解析から健康づくり

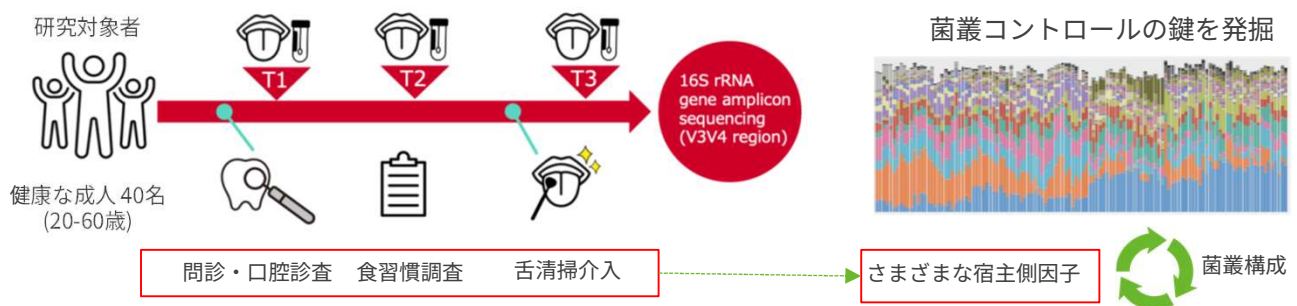
口腔フレイル研究グループ 松本 真理子

研究のねらい

- 口腔の二大疾患であるう蝕・歯周病はいずれも細菌による感染症であるが、口腔細菌が口腔疾患のみならず全身疾患にも影響を及ぼすことが近年注目されている。
- 特定の病原菌のみではなく、“菌叢”全体のバランスをコントロールすることで口腔と全身の健康維持や疾病予防につなげることを目指している。
- 口腔というアクセスのしやすい環境を活かすことで、セルフケアで行うことのできる菌叢改善は、国民に普及しやすいヘルスケアの一つとなることが期待できる。



新規技術の概要と特長



- ◆ 本研究では、口腔菌叢の中でも舌上に形成される舌苔菌叢に着目し、健康な成人40名から3回のタイミングで合計120サンプルを収集して菌叢解析を実施。
- ◆ これまで、口腔菌叢は唾液や歯垢から採取したサンプルで実施されることが多かったが、本研究では、唾液や歯垢の菌叢の供給源とも言われ、また高齢者の誤嚥性肺炎などにも密接な関連のある舌苔菌叢について解析していることに特長を有する。
- ◆ 菌叢解析結果と、研究対象者の問診・食習慣調査・口腔清掃介入の結果を照合し、関連のある因子について検討。これら因子を、菌叢コントロールの鍵ととして、ヘルスケア技術に応用する。

期待される連携・応用分野

- ・ 口腔衛生製品
- ・ 食品業界や外食産業
- ・ 菌叢解析サービス

関連特許および文献

- ・ "Community Types of Tongue Coating Microbiome Among Healthy Japanese", 104th General Session of IADR (San Diego), Abstract Poster#2589